

第14回総会記念シンポジウム 「テキスタイルデザイナーによるブランド展開」を考える



今野 文雄氏 菅原 リラ氏



近藤 仁史氏 大前 清司氏



久しぶりの京都会場（メルパルク京都）にて、5月17日第14回総会の後シンポジウムが開かれました。テーマは「テキスタイルデザイナーによるブランド展開」を考えると題し、坂口副理事長のコーディネートのもと、4人のパネラーの皆さんの現在に至る経緯をお聞きました。

TDA会員からは、今野文雄氏、近藤仁史氏、菅原リラ氏に登場いただき、「近江の麻」産地からは大前清司氏をお招きし、伝統を守りながら今見直されている環境に優しく継続できるモノ作りへの挑戦をされているお話を伺い、お3人からはどの部分を守って、どこで随所で工夫し、どの様に挑戦されたかを坂口副理事の素晴らしい采配でそれぞれに語っていただきました。素材、商品、売り方など皆さん違いますが、共通して感じられたのは、モノ作りに対する「理念」「志」のようなものをきちんと貫かれ、ご苦労や勉強代（お金、時間）をもらともせず、向かっていかれる雄々しいお姿であったと、心に焼き付いております。とても貴重なお話でたくさんのヒントをいただき、有難い2時間を過ごさせていただきました。

（司会：矢澤 寿々子）

■パネラー紹介

大前 清司 株式会社おおまえ代表 <http://www.oomae.co.jp>

「近江の麻」産地（滋賀県能登川）にてインテリア・寝装寝具の商品企画、各種糸加工・ビスコース・晒・コーティング加工などの素材開発及び製造販売を本業としながら、自主ブランド「柿の助」を展開。「柿の助」では、伝統的な小紋の柄をうるしでプリントして柿渋染又は鉄媒染（暮れ染め）し、独特の深みのある色合いと意匠感の服やかばんなどを中心に商品販売している。これ以外にも柿渋染の特徴を生かしたエプロンやストール、ジーンズ、帽子などさまざまな商品を企画・製品化し、販売を行っている。

「環境（地球・人）に優しく、古来の天然素材・技法を大切に」をモットーに、永く愛される商品、継続できるモノ作りを目指している。



上：鞆布製品 下：漉布エコバック